

ID	感染症 (PT)	出典	概要
40	ウイルス感染	J Clin Virol. 74(2016)78-81	カルジオウイルス属に属するSaffoldウイルスがヒトの心筋に侵襲的感染を引き起こす可能性について。デンマークにおいて剖検時に心筋炎と診断された死亡患者150例のホルマリン固定パラフィン包埋心臓組織検体を用いて検討した結果、小児1名の心筋組織、肺組織および血液からSaffoldウイルスが検出され、同時にウイルス感染に伴う心臓病及び肺の病理組織学的炎症所見が認められた。著者らはカルジオウイルスと心筋炎との関連の可能性が示唆されたと報告している。
41	ウイルス感染	ProMED-mail 20150917.3650625	ウシ白血球ウイルス (BLV) と乳がんに関する症例対象研究。乳がん女性の乳腺上皮におけるBLVのDNA検出率は、罹患暦のない患者と比較し有意に高く、BLV存在下における乳がんリスク比はBLVがない場合の3.1倍であったことが報告された。
42	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA Guidance for Industry. Updated January 2016.	米国FDAにより、クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) および変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) の血液および血液製剤を介した伝播リスクを低減するための業界向けガイダンスが改訂された。主な改訂内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・血漿分画製剤の表示に関する勧告 ・世界のvCJDおよび牛海綿状脳症 (BSE) の流行状況にかかる更新情報 ・家族にCJDの履歴がある供血者のリエントリー基準の明確化 (遺伝子配列検査による供血者の家族性CJDに関連した変異がないことの証明が必要であったが、CJDに罹患した家族が第二度近親である場合、罹患家族本人又は供血者の親の遺伝子配列検査を実施すれば、当該供血者が家族性CJDに関連する変異をもっていないことを示すためには十分であるとの見解が示された。) ・生物学的製剤逸脱報告に関連する要件の明確化
43	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 55(2015)2390-2397	プリオン除去フィルター (P-Captフィルター) のプリオン除去能の評価。236Kスクレイピー感染ハムスターの血液について、白血球除去およびP-Captフィルターを通過後のプリオン感染性を評価した。白血球除去により感染性の大部分が除去され、加えてP-Captフィルターでろ過することにより感染性がさらに除去されるが、感染性の残存が認められることが明らかとなった。
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2015年9月29日	スロベニアのウシ1頭において非定型BSE (H-BSE) が確認された。
45	多系統萎縮症	Proc Natl Acad Sci USA. 112(2015) E5308-17	パーキンソン病様症状を呈する多系統萎縮症患者の脳から、伝播性 α -シヌクレインプリオンタンパク質の存在が確認されたとの報告。
46	ウシ結核	ProMED-mail 20151205.3843019	ニュージーランドにおける家畜のウシ結核の報告。Mt Cargillにおいて家畜のウシ結核のアウトブレイクの原因について調査が進行中である。屠殺および結核の定期検査により3群の感染が特定され、これらの群にはウシとシカが含まれると考えられた。
47	エンテロバクター感染	ProMED-mail 20151122.3810204	Lancet Infectious Diseasesに掲載されたLiuらの報告によると、中国の動物およびヒトからサンプリングしたE. coliにおいてプラスミド媒介性のコリスチン耐性遺伝子が確認された。
48	ノカルジア症	J Clin Microbiol. 53(2015)1034-1037	ヒトにおける初めてのNocardia cerradoensisの報告。フランスにおいて腎移植患者の脳生検でヒトにおける初めてのNocardia cerradoensisによる播種性感染が報告された。
49	ライム病	Lancet infect Dis. doi:10.1016/S1473-3309(15)00464-8	米国において、ヒトにライム病を引き起こす新たな原因菌種が発見された。暫定的にBorrelia mayoniiと名付けられ、遺伝子検査によりBorrelia burgdorferiの近縁種であることが判明した。
50	ブルセラ症	ProMED-mail 20150923.3666018	オーストラリアにおけるブルセラ症の報告。New South Wales北部のブタのハンター1例が、2015年にブルセラ症に感染し、この症例がヒトにおける3例目の症例であることが報告された。